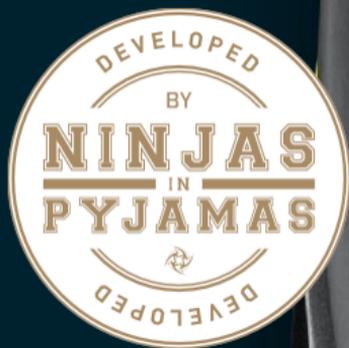


M1



xtrfy



M1.NINJASの手により、ついに完成。

M1のストーリーは短いものではありません。このマウスは、完璧なグリップとフィーリングを見出すための妥協なきプロセスを経た成果です。そのユニークな形状、表面品質、そしてボタン配置—M1の全ての要素は、プロのeスポーツチームであるNinjas in Pyjamasのメンバーにより設計、テストされ、細部まで調整されています。



勝利へと導く構成要素群

- 1 5-ボタン右きき用マウス
- 2 臨機応変のCPI設定 (400/800/1600/3200/4000)
- 3 オムロンスイッチ
- 4 ゴム加工表面
- 5 Pixart 3310 オプティカルゲームセンサ
- 6 2m長の耐久性編組ケーブル
- 7 スクロールホイール
- 8 Epicロゴ
- 9 ボーリングレートスイッチ:125,500,1000 Hz
- 10 テフロンパッド

M1の使い方

- 左クリック
- 右クリック
- 親指クリック
- 親指クリック
- スクロールホイール
- CPIボタン
- ボーリングレートスイッチ

設定

M1をUSBポートに接続します。ドライバのインストールが自動的に開始します。

LEDイルミネーションのコントロール

輝度を調整したり、LED照明をオフにするには、マウスの底面でCPIボタンを押した状態を保ちます。

CPIボタンの調整とポーリングレート

CPIボタンにより、マウスの感度を臨機応変に調整できます。ボタンを押すと、400 (赤), 800 (緑), 1600 (青), 3200 (紫) and 4000 (ターコイズ) CPI間で容易に切り替えられます。CPI設定が高くなるほど、マウスを動かしたとき、スクリーン上のカーソルがより遠くまで動くようになります。

ポーリングレートスイッチにより、マウスの応答時間を調整できます。ポーリングレートが高くなると、マウスが、コンピュータに対してその位置をより高頻度で伝えるようになります。1000 Hzのポーリングレート=毎秒1000回の位置更新。M1上では、125 Hz, 500Hzおよび1000Hzの間で切り替えられます。値が高いと精度が向上しますが、CPUリソースをより多く使用します。



サーフェスモード(クロスまたはプラスチックマウスパッド)

マウス上でサーフェスモードを切り替えると、ソフト(クロス)またはハード(プラスチック) マウスパッド仕様のセンサに容易に最適化できます。適切なサーフェスモードでは、マウスのリフトオフ距離を約1.5 mmまで最小化します。

サーフェスモード1(標準) = 大抵のクロスマウスパッドに好適。

サーフェスモード2 = 大抵のプラスチックマウスパッドに好適。

サーフェスモードを切り替えるには、左右のマウスボタンとスクロールホイールを5秒間押し続けます。マウスは、サーフェスモード1の状態では1回点滅し、サーフェスモード2の状態では2回点滅します。

トラブルシューティング

M1のUSBコネクタがコンピュータのUSBポートにしっかり接続されていることを確認してください。

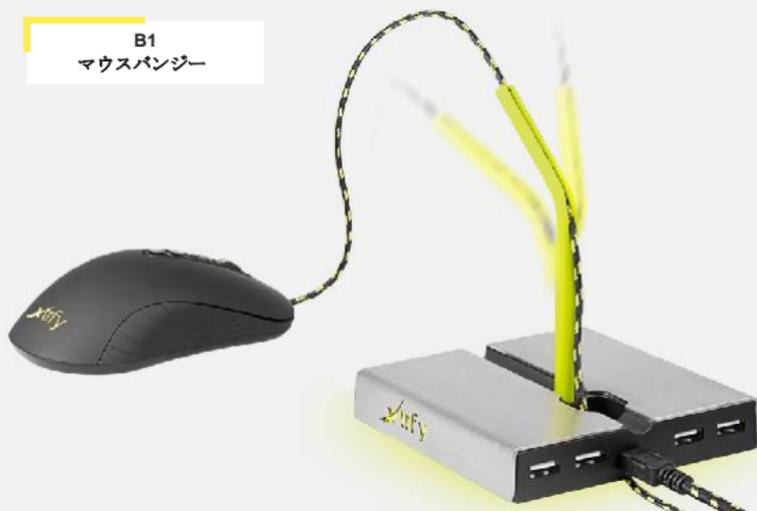
別のUSBポートに接続してみてください。

別のコンピュータに接続してみてください。

白色表面や非常に光沢のある表面ではカーソルの動きが影響を受けることがあります。

Xtrfy製品はまだほかにも。
XTRFY.COMでチェック!

B1
マウスパズル



K2-RGB
メカニカルキーボード







M1を選んでいただきありがとうございます。

貴方にも、私達同様、気に入ってもらえれば幸いです。
グッドラック。そして楽しみましょう！

friberg

Xtr